

～組織も部下も伸ばす“イクボス”のすすめ～

安藤哲也氏による「イクボスセミナー」を開催しました

国を挙げて取り組まれている「女性活躍推進」や「働き方改革」。その実現に向けて本市でも様々な取り組みを行っています。7月13日（金）、「イクボス」の普及啓発に取り組んでいる「NPO 法人ファザーリング・ジャパン」の代表理事 安藤 哲也氏を講師に招き、市役所の管理職を対象にセミナーを開催しました。

「イクボス」とは、部下のワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（管理職）のこと。

特に都市部においては共働きが当たり前となり、女性が働いたり、男性が家事をすることに抵抗がなくなってきている一方で、経営者・管理職世代の固定化した仕事のやり方や男女の役割意識（男性中心型の労働慣行）は、男性の家事・育児への参画、女性活躍推進の妨げとなっています。

また、少子化による労働人口減少の中で、子育て世代の出産育児による離職や40～50代の介護での離職者をいかに防ぐかは企業の喫緊の課題でもあります。

このような中で、全ての労働者の「育児、介護、その他私生活」などの生活事情全般への理解を示す「イクボス」の存在が大切になってきているという説明がありました。

日本は先進国（G7）の中でも労働生産性が最も低いという統計があり、これまでの日本企業における大きな課題として、「長時間労働」と「業務の属人化」が挙げられます。

「遅くまで頑張る（遅くまで会社に残る）」、「自分がないと仕事が回らない」といった価値観から、

「Work Smart」＝短い時間で高い価値を生む、生産性（コストパフォーマンス）の高さを重視する働き方へと切り替えていくために、「イクボス」の思想を持った経営者・管理職を増やしていけるよう、今後も啓発に取り組んでいきます。



講師の 安藤 哲也 氏

